

2017年度卒塾生 強さ

今からちょうど4年前、新中一の入塾テストを控えた1月の半ばごろ、彼女は体験入塾にやってきました。マスクの上に光る吸い込まれそうなほど澄んだ大きな瞳、落ち着いた言動、緊張している風でもなく堂々としている……。それが彼女との最初の出会いだった。授業は「割合」の応用。塾ならではの線分図を書くきっちりとしたやり方を指導し終えた後、宿題の練習プリントを彼女にも渡したのだが、なんと後日、教わったとおりのやり方でほぼ完璧にやってきました。普通、一回の授業だけでできるようになるものではない。優れた理解力である。その後無事入塾し、2017年度の卒塾生となる彼女だが、スタートはそんな驚きからだった。

だが、その後何事もなく順調に進んだというわけではない。もともと風邪をひきやすく、一度ひきこむと治りにくい体質である。入塾そうそう3月の末には、幼少の頃から度々みまわれる高熱の原因となっていた扁桃腺を除去する手術を受けた。ただでさえきつい塾のスケジュールを5回分休んで、そこを取り戻そうと平常授業とともに併せて勉強することは大きな負担となった。頑張っただけのものが学校が始まってからはついに限界に。やむなく選択したのは2ヶ月の休塾だった。体調と相談しながら必死で自分のペースを取り戻した。「このまま塾に行かない方が楽かもしれない……。」そんな考えもふと脳裏をかすめたが、ふんばって復帰した。もともと自分で決めた塾である。「こんな塾もあるよ。」と親にチラシを見せられ、その後自分でホームページも毎日チェックし、決断した。友達も皆大手塾に誘ってくる。「一緒にここに行こうよ。」と。でも、“自分はたとえ一人でもここに行く”と、決して気持ちは揺るがなかった。

休塾からの復帰後、もともと持っていた力をさらに順調に伸ばし、風邪と闘いながらも常に学校でもトップ争いをしていた彼女。「目指すなら一番上を目指せ。」—そんなお父さんのアドバイスの後押しもあって、高校は旭丘高校を志望した。自分の進む道を自分で決めて、自分の足で精一杯立ち、手探りながらも一步一步進んでいった。苦しいとき、つらいとき、誰かにあたってたり自暴自棄の行動をとったりしても何の解決にもならないことは、とうの昔から知っている。感情に押しつぶされそうになっても耐え、なおかつ自分を鼓舞する強さも持っていた。

あの日。第2志望校の入試で思いもよらない低い点数をとってしまった日。塾に来て、私の前で初めて涙をにじませ、それでも3日後の第一志望入試本番に向けて勉強していた彼女の口から出た言葉は、「大丈夫です。きっと大丈夫です。次はしっかりできると思います。」だった。

今、旭丘高校に元気に通う彼女。はじけた笑顔を時々見せてもらえることが私の幸せである。